

令和5年度 事業報告書

第1 はじめに

令和4年2月のロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、2年を経過した今も戦闘が続
き、また、令和5年10月に始まったイスラム組織ハマスとイスラエルの戦闘状態も終結の
見通しはたらず、多くの一般市民が犠牲となっている。

核兵器を巡る情勢は、ロシアのプーチン大統領が核兵器使用をほのめかす発言を
繰り返し、さらにイスラエルの閣僚がガザ地区での核使用を示唆する発言をし、ア
ジアでも北朝鮮が核・ミサイル開発を推進するなど、核兵器が使用される可能性が
高まっている。

このような状況の中、核兵器禁止条約の第2回締約国会議が令和5年11月にニュー
ヨークで開催され、「核のリスクが高まる中でも核なき世界に向けた取り組みを続ける」と
いう政治宣言を採択し、各国に核抑止に頼る政策を放棄し、核兵器禁止条約に加わるよ
うに呼びかけた。

当協会でも、令和6年1月には核兵器廃絶地球市民長崎集会との共催でICANのメリ
ッサ・パーク事務局長を迎えて「核兵器のない世界へ 私たちにできること～核兵器禁止
条約発効3年を迎えて～」と題して講演会を開催するとともに被爆者や青少年ピースボラ
ンティアなどの若者と意見交換を行った。

当協会の活動状況については、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが令
和5年5月から「5類感染症」に変更され終息へ向かったことから、被爆体験講話をはじ
め、平和案内人の原爆資料館常駐ガイド、朗読ボランティアの常駐朗読、長崎市から受託
している「青少年ピースフォーラム」などすべての事業は年間を通して対面で開催するこ
とができた。

「平和の文化」の取り組みでは、長崎県音楽連盟との共催による平和を祈るラウンジコ
ンサートや平和への願いを託した書道展を昨年に引き続き開催し、また追悼平和祈念館開
館20周年企画として、アメリカのノンフィクション作家スーザン・サザード氏を迎えての
講演会・企画展を開催するなど積極的に取り組んだ。

令和5年度から会員の利便性向上を図るため会費のコンビニ収納やホームページからの
クレジット決済、及び学生会員増加策として学生会員の会費無料化を図った。

第2 令和5年度の事業

当協会の事業は、公益目的事業である「1 平和推進事業」「2 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業」「3 収益事業（図書等販売）」の3事業であり、令和5年度の各事業の実施状況は、次のとおりである。

1 平和推進事業

「核兵器の廃絶」と「世界恒久平和の実現」に向けて、平和への認識をさらに深めてもらうために、財政基盤の確立と円滑な事業運営を図りつつ、次の事業を実施した。

(1) 広報事業

①会報等の発行

- ・会報「へいわ」
年4回発行（3月末現在181号、1回あたり2,300部発行）
- ・ブックレット「平和のあゆみ」
年1回、1,700部発行
- ・情報BOX
年8回、150部発行、協会役員・各部会員等へ郵送
- ・会員入会案内リーフレット作成
イベント開催時・ネット販売送付時等に配布

②ホームページ等広報

- ・協会ホームページ（16カ国語対応）
協会の設立趣旨や事業概要などの紹介、被爆体験講話・平和案内人をはじめとする平和学習の申込方法の案内の他、会報「へいわ」などのバックナンバーも掲載した。

令和5年度には、利用者の利便性及びセキュリティ強化を図るため、ホームページでの被爆体験講話予約システムの改修にあわせ、新たに家族・交流証言講話もホームページから予約できるように追加した。

- ・SNS：LINE 協会イベント等の情報発信（月4回程度投稿）
Instagram 青少年ピースボランティアの活動紹介、イベント情報など
（令和5年度までに320投稿）
YouTube 「8月9日の記憶」「被爆者健康講話」の動画発信
（令和5年度までに53投稿）
Facebook 追悼祈念館の情報を発信（令和5年度までに261投稿）

- ・その他
原爆資料館電停での広告パネルの設置や新聞広告掲載等で協会事業を広報した。

(2) 啓発事業

①平和学習：被爆体験講話者（継承部会員）派遣

令和5年度は、コロナ禍が明けマスクをはずしての講話となった。

修学旅行の行き先がコロナ禍の時は国内だったが、徐々に海外にも行けるようになり、令和4年度よりも100件程度少ないが、1,000件近くの被爆体験講話を実施することができた。

<被爆体験講話の実績（学校・団体）>

区 分	実施件数	受講人数	摘 要
令和2年度	495件	42,355人	コロナ禍
令和3年度	695件	75,056人	コロナ禍
令和4年度	1,092件	125,036人	コロナ禍
令和5年度	989件	110,347人	

<令和5年度の内訳>

区 分	実施件数	(うち市内)	(うちオンライン)	受講人数
小学校	426件	(45件)	(0件)	34,758人
中学校	294件	(18件)	(3件)	40,014人
高等学校	172件	(0件)	(4件)	29,356人
一 般	97件	(0件)	(4件)	6,219人
計	989件	(63件)	(11件)	110,347人

※「うち市内」は、長崎市内の小学校・中学校・高校・一般の講話件数

ア 被爆体験講話者派遣事業（長崎県主催事業）

県内：佐世保市、※諫早市、大村市、※平戸市、※対馬市、※五島市、※西海市
 ※雲仙市、※長与町、※時津町、波佐見町

大学：※上智大学、九州大学、※筑波大学

（※はオンライン）

イ 被爆者証言ビデオ

継承部会員の被爆場所や当時の自宅周辺などを訪れ、被爆前の生活や被爆直後の様子、家族の話、被爆後の暮らしなどを語る「被爆場所等で語る被爆証言8月9日の記憶」を制作した。

このビデオは、平和学習を実施する学校・団体等へのDVD無料貸出の他、協会YouTubeで公開している。

・被爆者4人撮影：森田 宏氏、三瀬 清一郎氏、市丸 彪氏、小峰 秀孝氏

※「8月9日の記憶」約15分/人（令和2年度からの累計：16人）

②原爆被災写真パネル・DVDの貸出

修学旅行などの事前学習の他、写真展の開催などに役立ててもらうため、原爆被災写真パネル・DVDを無料で貸し出している。

<令和5年度貸出状況>

区分	写真パネル	DVD	
	件数	件数	本数
小学校	3	6	15
中学校	2	18	39
高等学校	3	11	28
一般	15	20	29
計	23	55	111

③講演会等の開催

協会の設立趣旨に沿い、会員及び市民に世界恒久平和への諸問題について認識を深めてもらうため講演会等を開催している。また、長崎市の「平和の文化キャンペーン」に参加し、イベントも開催した。

「ナガサキの郵便配達」朗読と音楽で紡ぐ平和への想い

- ・開催日：8月26日
- ・会場：長崎原爆資料館ホール

ラウンジコンサート 2023「Music Garden Pray & Play」

- ・開催日：9月30日、10月21日、11月18日
- ・会場：国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ

森田孝子書道展「平和への願いを書に託して」

- ・開催日：11月3日～7日
- ・会場：国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ

Winter Ring a Bell Concert～愛と平和を長崎から～

- ・開催日：12月23日
- ・会場：長崎原爆資料館ホール

ICAN 事務局長 メリッサ・パーク氏 講演会

「核兵器のない世界へ 私たちにできること ～核兵器禁止条約発効3年を迎えて～」

- ・開催日：1月21日
- ・会場：長崎原爆資料館ホール

④国連軍縮週間行事「市民のつどい」

10月24日から30日の「国連軍縮週間」に合わせ「市民のつどい」を開催している。

令和5年度も、原爆写真展示や折り鶴作り、平和への願いを書き込むエコ風船コーナー、ミニコンサート、二胡演奏などを行った。また4年ぶりに戦時食コーナーを復活し、戦時食を紹介した。その他、被爆3世の上奥まいこさんによるオリジナルコンサートやチンドン屋「かわち家」による平和紙芝居を上演し、改めて平和について考える機会になった。

- ・開催日：10月28日
- ・場所：原爆資料館前階段下広場
- ・来場者：約700人

⑤「平和への^{ウムイ}思い」発信・交流・継承事業

(特定非営利活動法人 沖縄平和協力センターからの受託事業)

令和5年度も、沖縄県平和祈念資料館の主催する「令和5年度『平和への思い』発信・交流・継承事業」について、受託事業者である特定非営利活動法人沖縄平和協力センターを介し、長崎における学生募集の窓口機関として、長崎在住の大学生の参加に伴う5人の学生の募集・選考、事前学習、沖縄への研修の帯同などを行った。

- ・事前学習：9月～11月
- ・派遣学習：11月19日～26日

⑥研修の受け入れ

- ・国際基督教大学（ICU）サービス・ラーニングの学生受け入れ
原爆・平和、協会の事業について理解を深めてもらうため、国際基督教大学の学生2人を7月11日から8月10日まで受け入れた。
- ・長崎県立長崎東中学校生徒の研修受け入れ
長崎県立長崎東中学校の「総合的な学習の時間」の「職場体験学習」として生徒3人を10月25日～10月27日の3日間受け入れた。

(3) 継承事業（長崎市からの受託事業）

①「県外原爆・平和展」

令和5年度は、京都府福知山市、東京都千代田区、埼玉県三郷市で開催した。展示だけでなく、被爆体験講話会に加え、写真資料調査部会員による展示解説も行った。

<令和5年度県外原爆・平和展の開催内容>

京都府 福知山市	開催時期	7月26日～8月9日（14日間）
	展示会場	福知山市人権ふれあいセンター 下六人部会館2階 会議室
	来場者数	556人
東京都 千代田区	開催時期	8月1日～8月15日（15日間）
	展示会場	千代田区役所 1階 区民ホール
	来場者数	811人
埼玉県 三郷市	開催時期	8月3日～8月16日（①11日間、②14日間）
	展示会場	① 三郷市役所 1階 市民ギャラリー ② ららぽーと新三郷ららぽっとみさと
	来場者数	4,141人（2会場計）

②語り継ぐ被爆体験（家族・交流証言）推進事業

令和5年度も「託したい方」と「受け継ぎたい方」を募り交流会を実施し、聞き取りや講話原稿・資料作成などを支援するほか、パソコン研修や話し方講座など様々な研修も実施した。

派遣事業では長崎市内に派遣したほか、毎月第2木曜日、第4日曜日は原爆資料館内での定期講話を実施した。

ア 登録者数及び講話者数（令和6年3月31日現在）

登録者113人、うち講話者延62人（実人数55人）

イ 講話実施回数

区分	市内	市外	県外	合計
令和2年度	68件	6件	36件	110件
令和3年度	105件	13件	48件	166件
令和4年度	125件	16件	84件	225件
令和5年度	126件	13件	92件	231件

ウ 主な事業内容

- ・交流会の開催 9月23日、24日 参加者数 24人
- ・各種研修会の開催（原爆や核についての講座、話し方研修、パソコン研修等）
- ・動画作成（被爆者2人分）
- ・審査会の開催 6件

③青少年ピースボランティア育成事業

令和5年度は8月の青少年ピースフォーラムに加え、広島研修・福島研修や自主企画の学習会などを実施した。8月9日の平和祈念式典でのボランティアや一部プログラムが台風の影響で中止になった。

ア 対象：15歳（中学生除く）以上30歳未満の青少年

イ 登録者：130人（3月31日現在）

（内訳：高校生77人、大学生39人、社会人8人、その他6人）

ウ 主な事業内容

- ・平和学習（月1回程度）：被爆の実相や平和に関する諸問題の学習
- ・青少年ピースフォーラムへの参加及びその準備
- ・平和祈念式典や市民大行進等平和関連行事でのボランティア活動
- ・平和学習発表会の進行
- ・自主企画の実施
- ・出前講座や被爆遺構ガイド、他団体等との交流の実施

・派遣研修

「広島研修」 11月3日～5日

「福島研修」 2月10日～12日

④青少年ピースフォーラム

毎年8月9日の平和祈念式典にあわせて、全国の自治体が派遣する平和使節団の青少年と地元長崎の青少年とが一緒に被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図った。主な企画や当日の進行は、青少年ピースボランティアが担っている。令和5年度は、台風6号の接近に伴い8日のみの開催となったが、交流会を4年ぶりに開催することができた。

ア 日 時：8月8日

8月9日 台風のため中止

イ 場 所：平和会館、長崎原爆資料館、長崎新聞文化ホール・アストピアほか

ウ 自治体数：12団体（サントス市含む）

エ 参加者数：自治体参加者163人・青少年ピースボランティア60人

オ 主な内容

- ・被爆体験講話
- ・参加型平和学習（照明や音響を活用した戦時下の生活の疑似体験など）
- ・被爆建造物等めぐり

⑤平和学習発表会（令和3年度より受託）及び教材等配布（令和5年度より受託）

長崎市内の中学生が、日頃取り組んでいる平和学習の成果などの発表を通して、各校における生徒による平和への取り組みを発展させることを目的として平和学習発表会を開催した。

ア 日 時：8月18日

イ 参加者数：参加中学生86人・青少年ピースボランティア11人

ウ 主な内容

- ・各学校の取り組み発表
- ・青少年ピースボランティアによる平和活動の紹介

長崎市内の小中学校の平和学習の機会を増やし、平和への願いを広めるため、副読本「平和ナガサキ」を作成し市内全小中学校に配布するほか、平和学習の推進のために、被爆体験等を伝える紙芝居やDVDを増刷し、全国の希望者に配布した。

(4) 調査研究

①「未来アクションフェス」

開催日：3月24日

場 所：国立競技場（東京都新宿区）

テーマ：未来アクションフェス～今、ここから、持続可能な未来への行動を～

(5) 育成事業

①部会活動

令和5年度は、コロナ禍が明け協会会員で組織する4部会が活動を行った。

ア 継承部会(31人)：修学旅行生等を対象とした被爆体験講話の他、計6班の班活動として、市民対象碑めぐり、継承部会つうしんの発行、海外とのオンラインによる講話などを実施した。

イ 写真資料調査部会(8人)：原爆被災を記録した写真の収集・検証など写真を通じた原爆被害の実相を伝える活動をしている。

定期的に写真展を開催しており、令和5年度は7月24日から8月10日まで「投下前のファットマンの前で作業する米軍兵士」などの写真約40点と、同年5月にご逝去された深堀好敏名誉部会長の功績を辿る展示を行った。

ウ 国際交流部会(20人)：毎月例会を開催し、地元の外国人との相互理解を深めている。

令和5年度は外国人から見た軍艦島の魅力、日系アメリカ三世の「道なき道」を歩く生き方、中国の若者の力強い未来志向の考え方など多岐にわたる話題で実施した。

エ 音楽部会(16人)：令和5年度は、8月に「いのちの灯をともしあう音楽で熱いエールを贈ります」をテーマとして「長崎平和音楽祭」を開催した。また、「市民のつどい」で平和の歌の合唱をした。

②平和案内人育成・派遣事業

「平和案内人」は、長崎原爆資料館や国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、周辺の被爆建造物等のガイドを行っている。

令和5年度は4年ぶりに育成講座を開講し、第8期生として36人が講座を修了した。8期生は令和6年5月から活動を開始する。

第1期生から第7期生までの140人が登録し、活動している。

《活動内容》

- ・長崎原爆資料館の常駐ガイド（無料）
受付に待機し、長崎原爆資料館や追悼平和祈念館の館内を案内
- ・長崎原爆資料館予約ガイド（有料：2,000円）
事前に申し込みを受け、館内を案内
- ・碑めぐりガイド（有料：2,000円）
事前に申し込みを受け、平和公園や周辺の被爆建造物等の希望箇所を案内

《全体会》

令和5年度は下記の内容で全体会を実施した。

6月25日

「デジタルアーカイブを活用した被爆体験の継承活動」

講師：長崎大学核兵器廃絶研究センター 特任研究員 林田 光弘

「マナーアップ研修」

講師：元アナウンサー 東島 真奈美

《第8期 平和案内人活動実績》

区 分	利 用 者 数			計	活動人数 (延)
	原爆資料館 常駐ガイド	予約ガイド			
		資料館内	碑めぐり		
令和2年度	2,345人	514人	2,704人	5,563人	1,136人
令和3年度	1,918人	688人	3,939人	6,545人	1,098人
令和4年度	4,287人	1,503人	7,757人	13,547人	2,029人
令和5年度	6,238人	1,814人	7,835人	15,887人	2,439人

《平和案内人育成講座》

期 間：11月25日～3月9日（全15回）

修了者：36人（応募者 44人）

③国際青年平和交流事業

令和5年度は、長崎の若者（大学生・高校生）に、「自分たちが考える国際・平和プログラム」を募集し、2団体を認定した。

- ・発表・審査会 6月10日〔追悼平和祈念館交流ラウンジ〕
- ・成果報告会 3月23日〔追悼平和祈念館交流ラウンジ〕

《事業内容》

ア 活水高等学校 平和学習部 「食と平和とアート」

国内外の若者たちと平和について考え交流を深めるために、戦時中の食とアートをテーマにしたワークショップを開催した。

イ 長崎大学 学生国際 NGO BOAT 「フィリピン スタディツアー」

貧困地域におけるボランティア活動などを通して、世界の貧困状況について身をもって学ぶとともに自分たちにできることを考えるため、フィリピンを訪問した。

④平和事業支援（共催・協力・後援等事業）

令和5年度 共催等事業

No.	事業名	主催団体	開催日	開催場所
1	第33回ながさき平和大集会	核兵器廃絶地球市民長崎集会 実行委員会	7/2	原爆資料館 ホール
2	第38回長崎平和音楽祭	長崎平和音楽祭実行委員会	8/5	原爆資料館 ホール
3	長崎国際平和映画祭 2023	国立長崎原爆死没者追悼平和 祈念館	8/18・19	原爆資料館 ホール/ 平和学習室
4	第15回 語り合おう in Nagasaki 外国人による日本語弁論大会	外国人による日本語弁論大会 実行委員会	10/14	追悼平和祈念館 交流ラウンジ

令和5年度 後援等事業

No.	事業名	主催団体	開催日	開催場所
1	KNOW NUKES FORUM	KNOW NUKES TOKYO	4/30	HYPERMIX 門前 仲町
2	第5回 ナガサキ 映画と朗読 プロジェクト	ナガサキ 映画と朗読 プロジェクト実行委員会	7/22・23	原爆資料館 ホール
3	国際平和シンポジウム 2023 「核兵器廃絶への道」	広島市 広島平和文化センター 朝日新聞社	7/29	広島国際会議場
4	第70回長崎原爆忌平和 祈念俳句大会	第70回長崎原爆忌平和祈念 俳句大会実行委員会	8/5	原爆資料館 平和学習室
5	第61回原爆忌文芸大会	NPO 法人長崎国際文化協会	8/5	長崎ブリック ホール ギャラリー他
6	-結ぶ project- ニューヨーク平和祈念公演	一般社団法人東京ビジュアル アーカイブス	8/5・8・9	NY セントマルクス 教会 NY ジャパン・ソサ エティ NY 国連チャーチ センター
7	第5回長崎平和祈念茶会	長崎平和祈念茶会実行委員会	8/6	原爆資料館 いこいの広場
8	国連80周年記念 プロジェクト・キックオフ in 長崎～「第九」演奏会	(株)LOCAL2 国連認定 NPO Martial Arts Academy	8/6・7	原爆資料館 ホール チトセピア ホール
9	創立20周年記念 「平和の祈りキッズゲルニカ in ながさき」 国際子ども平和壁画展	長崎親善人形の会 (瓊子の会)	8/6～31	原爆落下中心地 公園 下の川

10	被爆 78 年 連合 2023 平和ナガサキ集会	日本労働組合総連合会	8/8	長崎県立 総合体育館
11	祈念館開館 20 周年記念事業 スーザン・サザード氏 記念講演会及び企画展	国立長崎原爆死没者追悼平和 祈念館	講演会 10/22 企画展 10/22 ~11/18	原爆資料館 ホール 追悼平和祈念館 交流ラウンジ
12	第 45 回平和の使者 クリスマスカードコンテスト	長崎 YMCA 長崎ワイズメンズクラブ	11/1~12/26	長崎 YMCA 浜屋百貨店 西沢本店
13	開館 20 周年記念事業 「映像が語る原爆の記憶」	国立長崎原爆死没者追悼平和 祈念館	1/20~27	追悼平和祈念館 交流ラウンジ
14	神保町コレクティブ 第 1 回ワークショップ (能とダンスで学ぶ身体表現)	一般社団法人東京ビジュアル アーカイブス	3/16	専修大学
15	未来アクションフェス	未来アクションフェス 実行委員会	3/24	国立競技場

⑤秋月グラント（助成制度）

被爆の継承や平和意識高揚のための事業を実施する団体等へ、初代理事長である（故）秋月辰一郎氏の名を冠した助成を行い、平和に関する事業・活動を支援する。

令和 5 年度は、3 件の事業を助成した。

No	事業名		事業内容
	主催団体		
	開催期間	助成金	
1	継承フォトワークショップ		<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代を対象に、被爆者への聞き取り、撮影を行う ・作品展やワークショップを通して被爆継承活動を行う
	Studio One Nagasaki		
	7 月~12 月	15 万円	
2	障がい者が作る平和をテーマ とした紙袋制作・配布事業		<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の方々が作る平和をテーマとしたアート作品を活用して紙袋を制作する ・爆心地公園や平和公園などで配布することで、平和に関する啓発活動を展開する
	7%er となかまたち		
	8 月~2 月	15 万円	
3	韓国ソウルへ 原爆・平和を旅する		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の平和団体と韓国の平和団体を通して、韓国で原爆の実相を語り、平和の尊さを学び合う ・相互理解を深め、歴史や文化を知ることにより、国際親善を計る
	韓国・日本 原爆平和を語る会		
	2 月	15 万円	

2 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館は、平成 15 年 7 月の開館以来、国（厚生労働省）から当協会が施設の管理及び事業運営を受託している。

令和 5 年度は、台風 6 号の接近に伴い、8 月 9 日 15 時から休館した。（本来は 20 時まで開館）

令和 5 年度も、引き続き、新型コロナウイルスの感染対策を講じながら、来館者が安全安心に見学できる施設の環境づくりに努めた。

（1）追悼平和祈念館入館者数の推移

年 度	入館者数	対前年度増▲減	摘 要
令和 3 年度	60,600 人	2,683 人増（4.6%）	4/28～6/7 8/10～9/12 1/21～3/6 臨時休館（コロナ）
令和 4 年度	95,260 人	34,660 人増（57.2%）	9/18～9/19 臨時休館（台風）
令和 5 年度	118,562 人	23,302 人増（24.5%）	8/9 15:00～20:00 臨時休館（台風）

（2）追悼平和祈念館の主な事業（令和 5 年度）

① 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開及び死没者名簿の保管

・令和 5 年度：303 人（令和 4 年度：334 人）

令和 5 年度は、広島祈念館と共同で、都道府県の担当者あてに文書を送付して協力を要請した。

② 被爆体験記等の収集・整理・公開

・令和 5 年度：79 人分（令和 4 年度：69 人）

令和 5 年度は、令和 4 年度に引き続き、長崎県と長崎市の協力を得て、長崎内の被爆者へ直接協力を呼びかけたことにより、多くの被爆体験記を収集した。

③ 企画展の開催（収集した被爆体験記等の展示・公開）

・第 13 回体験記企画展「LIFE AFTER NUCLEAR WAR」

令和 5 年度は、スーザン・サザード氏の著書「ナガサキ 核戦争後の人生」で描かれた被爆者 5 人の被爆体験やその後の人生に焦点をあてた展示を行った。あわせて、5 人の被爆体験証言ビデオも上映した。

④ 被爆体験記の執筆補助

・令和 5 年度：26 人（令和 4 年度：64 人）

令和 5 年度は、令和 4 年度に引き続き、長崎県と長崎市の協力を得て、長崎県内の被爆者へ直接協力を呼びかけた。

⑤ 被爆証言ビデオの制作

- ・令和5年度：25人（うち海外3人）（令和4年度：24人（うち海外2人））

⑥ 被ばく医療関連情報の収集・整理・提供

- ・令和5年度の被爆者健康講話：10回（令和4年度：7回）
令和5年度は、対面で開催し、録画したものを祈念館ホームページに掲載した。

⑦ 平和関連情報の収集・整理・提供

- ・令和5年度：2,460件（令和4年度：2,162件）
- ・令和5年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止していた自筆式のカード記入も再開した。

⑧ 海外原爆展の開催

- ・令和5年度は、令和4年度に実施した米国ハワイ大学マノア校での海外原爆展の期間（3/1～3/31）を延長し、引き続き4月1日から4月28日まで開催した。（職員および被爆者の渡航はなし。パネル写真等の展示のみ）

また、12月15日から2月1日までジョージア（旧グルジア）のイリア国立大学（トビリシ市）、2月4日から2月18日までバトウミ国立大学（バトウミ市）、2月27日から3月31日までシグナギ国立博物館（シグナギ市）で実施した。

トビリシ市およびシグナギ市での開会式には職員が出席した。

なお、被爆体験講話については、12月15日と2月27日にオンラインで開催した。

- ・開催場所 ①ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館（米国・ホノルル市）

②イリア国立大学（ジョージア・トビリシ市）

③バトウミ国立大学（ジョージア・バトウミ市）

④シグナギ国立博物館（ジョージア・シグナギ市）

- ・開催期間 ①4月1日～4月28日

②12月15日～2月1日

③2月4日～2月18日

④2月27日～3月31日

- ・来場者数 ①3,154人

②4,000人

③200人

④998人

※シグナギ国立博物館は令和6年5月2日まで会期延長して開催した。

⑨ 多言語化対応事業

- ・英語・中国語・韓国語等への被爆体験記等の翻訳、インターネットでの公開

⑩ 外国語講座の開催（平和ボランティア育成外国語講座：英語・中国語・韓国語）

- ・令和5年度：英語、韓国語、中国語の20人修了（令和4年度：22人終了）

⑪ 被爆体験記の朗読事業

- ・令和5年度：常駐朗読115日、定期朗読会14回、派遣朗読53回、朗読指導3校（令和4年度：常駐朗読89日、定期朗読会14回、派遣朗読36回、朗読指導4校）

令和5年度は、追悼平和祈念館開館20周年を記念し、長崎県音楽連盟協力のもと、「朗読と音楽の調べ」と題し、12月から3月まで3回にわたり、音楽を交えた朗読会を開催した。

また、被爆体験を語り継ぐ永遠の会 U-25 のメンバーも MC や朗読を行い、若者の参画を図った。

- ⑫ 家族・交流証言者等の派遣および語学等の研修
 - ・令和 5 年度の長崎市外への派遣 173 件（令和 4 年度：145 件）
 - 令和 5 年度からは、東京都国立市が養成した「原爆体験伝承者」の派遣も開始した。
 - ・令和 5 年度の語学等の研修は、家族・交流証言者語学育成研修、被爆体験記朗読ボランティア語学育成研修（どちらも少人数による対面）を実施した。
- ⑬ インターネット会議システムによる平和学習・交流（ピースネット）
 - ・令和 5 年度：27 回実施（うち海外 4 回）（令和 4 年度：40 回（うち海外 3 回））
- ⑭ 修学講習の実施（追悼平和祈念館内における被爆体験講話）
 - ・令和 5 年度：96 回（令和 4 年度：157 回）
 - 修学旅行生などの団体に会場として、祈念館の「研究室」を提供し、平和学習のために被爆体験講話を実施している。
- ⑮ インターネットによる情報提供（グローバルネット等：広島館と協同）
- ⑯ 情報展示システムの保守・管理
 - ・令和 5 年度は、7 月にシステム機器更改を実施した。また、開館 20 周年を機に、来館者からの要望を受け、追悼空間前室にて死没者検索ができるよう改修した。
- ⑰ 平和・国際交流ネットワーク構築（若者による平和ネットワーク構築プログラム）
 - ・令和 5 年度の参加者：計 26 人（海外からの招聘者 15 人含む）
 - （令和 4 年度：計 30 人（海外からの招聘者 13 人含む））
 - ・期間：2 月 12 日～17 日
 - ・令和 5 年度は、「Youth Conference in Nagasaki」を 3 日間にわたって開催し、この会議への参加をメインに対面で実施した。
- ⑱ 国際平和映画祭の開催
 - ・令和 5 年度：3 作品（令和 4 年度：3 作品）
 - ・実施日：8 月 18 日～19 日
 - ・来場者数：1,106 人（令和 4 年度：368 人）
 - ※上映作品（令和 5 年度）「おまえうまそうだな」「えっちゃんのせんそう」「ブレッドウィナー」
 - 令和 5 年度は、「子ども平和映画祭」と称し、学童クラブに呼びかけるなど夏休みに子どもを対象として集客をはかり実施した。映画の上映のほか、平和かみしばいの上演や恐竜ポストカード作りのワークショップなどを開催した。
- ⑲ 「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタル化事業
 - ・令和 5 年度は、「被爆前の長崎」の写真を活用した平和教育映像教材を 3 本制作した。また、令和 4 年度に制作した被爆前後の様子を比較しながら見ることができる航空写真マップ「航空写真アーカイブ」を拡充し、広島版の追加や、浦上エリアを中心に被爆前後のスチール写真を同アーカイブ上に配置した。
 - 令和 4 年度に開設した「被爆前の日常アーカイブ」の英語版サイトも開設した。
- ⑳ その他（館内利用）
 - ・令和 5 年度：397 件 23,037 人（令和 4 年度：384 件 23,161 人）
 - 修学旅行の学校が、追悼空間を利用して平和集会や献花式を行った。

② 1 祈念館開館 20 周年事業

- ・スーザン・サザード氏記念講演会 & 企画展

アメリカのノンフィクション作家で「ナガサキ～核戦争後の人生」の著者であるスーザン・サザード氏が、同著にも描かれている被爆者の 5 人の「長い戦後」について、「被爆体験を語り継ぐ永遠の会」による朗読や交流秘話を交えて講演を行った。

企画展の詳細については、「③ 企画展の開催」の項参照

- ・追悼空間前室内祈念館情報展示システム機器更改

詳細については、「⑩ 情報展示システムの保守・管理」の項参照

- ・朗読会「朗読と音楽の調べ」の開催

詳細については、「⑪ 被爆体験記の朗読事業」の項参照

- ・映像展「映像が語る原爆の記憶」の開催

NBC 長崎放送所蔵の原爆をテーマとした至宝映像 6 作品を 1 月 20 日から 27 日まで、祈念館交流ラウンジにて、毎日上映した。（※1 月 20 日はオープニングトークイベント開催のため、2 作品のみ上映）

3 収益事業（図書等販売）

当協会では、平和推進事業の実施に必要な自主財源を確保するために、原爆に関する書籍や平和グッズを作製し、原爆資料館の売店、協会 SHOP サイト、市内の書店で販売している。

令和 5 年度には、前年度に発売し好評な「Peace なねこ」シリーズ（T シャツ、エコバッグ、クリアホルダー）に新たに「缶バッジ」を作製し販売した。なお協会 SHOP サイトを全面的にリニューアルし、クレジットカードや電子マネー決済が可能となった。

4 法人の管理運営に係る費用（法人会計）

令和 5 年度も、社会保険労務士、税理士等の専門家から助言を受けて、法人運営を的確に運営するとともに、法人の理事会、評議員会、各種委員会等を開催した。

令和 5 年度は、特に公益法人の理事等の変更手続きセミナーや会計事務処理の研修などに参加することで、協会職員のスキル（事務処理能力）の向上が図れた。

5 その他

令和 5 年度から会員の皆様の利便性向上を図るため、協会の会費・寄附金の納入方法について、これまでの郵便振替及び銀行振込に加え、新たにコンビニ収納やホームページからのクレジット決済を行えるようにした。

また、学生会員増加策として、学生会費を無料化したことで会員が増加した。

（附属明細書）

令和 5 年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので作成しない。